

## 自己評価及び外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	社内独自に作られた credo(理念)があり玄関・事務所に掲示してある。日々の朝礼などでも理念に沿ったケアについての話し合いがあったり、会議でも社長から理念の話があり共有している。	月に一回の社内研修では、社長が主体となり、法人の理念・方針の説明等を通じた、介護の質についての研修と話し合いを行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議により、利用者の現状報告をし地域の方にも理解を得ている。地域の行事にも積極的に参加し、馴染みの顔も出ている。また、こちらの行事にも声がけをしている。	区長、民生委員、地域住民代表等が参加する運営推進会議にて、利用者の状況等を説明して、施設の実情に関する理解を深めて頂いている。また、天気の良い日は日常的に散歩を行い、地域住民との交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	オレンジカフェに積極的に参加し、認知症のご家族やご本人の悩みや相談を受けている。また、地域の方と認知症の勉強会を開催したり、認知症の周辺症状や支援方法を運営推進会議などで話しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一回のペースで行い、毎回参加者も多く積極的な意見があり、意見をサービスに生かせる体制が取れている。区長さんからも色々提案して頂き、地域を巻き込んだ活動を目指している。	運営推進委員会では、施設利用者の状況、施設や近隣のイベント情報、施設や近隣地域等の課題について、十分な時間をかけて話し合いが行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	二か月に一回の運営推進会議には、介護保険課や地域包括の方へ出席頂き、意見や情報の交換を行っている。また地域での相談など、保健センターや社協などとも連携している。	市の介護保険課や地域包括支援センターの職員にも運営推進会議に参加頂いているほか、日々の関係機関との連携を重視して施設運営に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	代表者が自ら研修を行い基本的な知識は職員が理解できている。玄関の施錠は徘徊者がいる事と、防犯の為やむを得ず施錠しているが、ご家族には理解を得ている。	利用者の意図しない外出の危険性を低減するため、やむなく玄関を施錠しているが、その理由については、職員や家族等としっかり話し合いを行い、理解を頂いている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	代表者が自ら研修を行い、基本的な知識は職員が理解できている。小さな傷・アザにも細心の注意を払い、原因究明を行い虐待では無いかの確認をし、防止に努めている。		

さわやか川中島 第1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している利用者が居るため、学ぶ機会は多くあり、理解した上で制度を活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に十分に説明を行って、不安を抱えたまま入居する事のないよう心掛けている。また、ご家族が理解できるよう出来るだけ優しい言葉で専門用語は使わず、思いを聞きながら説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族参加の行事の際は家族会を行い、意見や要望をお聞きしている。毎月写真を添付したお手紙で利用者の様子をお伝えし、それについての話などもご家族から頂いている。	毎月、ご家族に利用者の近況写真入りの「お便り」と広報誌「さわやか川中島たより」を送り、施設の状況を伝えている。また、家族会だけでなく普段の面会時等のコミュニケーションでご家族などの意見をお伺いしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議・研修会・日々の朝礼などで意見や提案の場を設けている。また、夏冬のボーナス時には面談をし、悩みや要望などを聞く場を作っている	月1回の研修/全体会議には社長と管理者が出席し、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、年2回の個人面談でも、職員の要望など、幅広い意見を受け運営に生かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働者共済に加入し職員は活用している。代表者は男子会など開催し、職員の要望などに耳を傾け、また職員も代表者の思いを把握している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修や勉強会の参加を促し、スキルアップ出来るよう努めています。社内研修では代表者が自ら勉強会を行い、更なるスキルアップを目指しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	代表者はオレンジカフェに自ら積極的に参加し、同業者等とのネットワークに努めている。さらに職員もボランティア活動として参加する事により、同業者との交流を行っている。		

さわやか川中島 第1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談により、本人の性格や生活スタイルなどを聞き、ケアマネやご家族から情報を収集し、安心して生活して頂けるよう職員全員が情報を共有し、ご本人との関係づくりに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談からご家族の思いや要望・困りごとなどをお聞きし、コミュニケーションに努め、何でも話せる雰囲気作りを心掛けています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	様々な情報を分析し、関係者各位と意見交換を行い、検討し、必要としている支援を見極め、的確な支援が行える様努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者も職員も大きな家族と捉え、家族の一員として、洗濯たたみやテーブル拭きなど出来る事は職員と一緒にしている。日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会や外出・外泊の機会を作るお手伝いをさせていただいたり、面会時は居室にてゆっくりとご家族と過ごして頂けるような支援を心掛けています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅で過ごしていた時のご近所の友達や、なじみの親戚の方が気兼ねなく面会できる雰囲気作りに努めています。ホームのご近所の入居者の方には自宅の近くまで散歩に行ったり、近所の方と会える機会を作れるよう支援しています。	近隣に、ご家族やご自宅等をもつ利用者が多く、ご近所の方の面会も多い。希望に応じて、昔住んでいた町などの馴染みの場所への外出支援も行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	居室で過ごされる方はほとんどおらず、一日の大半をフロアで過ごされ、利用者同士でおしゃべりしながらお茶のみが出来る場を作り、協力しながら洗濯物たたみや茶碗拭きなど関わりあえる様支援しています。		

さわやか川中島 第1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了時でも、季節の野菜を届けていただいたり、不要になった衣類など戴いたり、他施設に行かれた方がご家族と訪ねて来られ、利用者様と食事を共にするなど、いつでも来ていただける様、お声がけしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者に居室担当を配置しケアプランを立てる際はご本人の希望や思いに添えるよう本人を交え、話す場を設けている。本人が困難な場合は、何を求めているか検討し把握できるよう努めている。	居室担当者を配置し、担当者を中心に、ご本人の意向を把握できるように取り組んでいる。また、ICF(国際生活機能分類)の視点で利用者の状況とニーズの全体像をもれなく捉え、朝礼などで情報共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	毎日の生活の会話の中から、今までの生活歴を探り、またご家族に出来るだけ多くの情報を頂き一人ひとりの暮らしの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今までの生活スタイルを大事に、様々な個別記録を活用しながら、把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人やご家族の願いや希望を取り入れながら、穏やかにその人らしく生活できるよう、介護計画を作成している。モニタリングも看護師・介護員・管理者等色々な方面で現状に即したケアのあり方を検討している。	毎月カンファレンスの日を設けて、利用者の介護計画や支援方法について、職員と話し合っている。また、必要に応じてご家族や関係機関との相談を行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	サービス提供記録・排泄・水分・バイタル等、個別に記入し、朝礼や引継ぎで情報を共有している。変化・問題など発生した時は、カンファレンスを行い、見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時の状況に応じて、職員間で相談し、臨機応変に対応できるよう、取り組んでいる。		

さわやか川中島 第1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	福祉タクシー・訪問理美容・マッサージ・健康体操など、地域の資源を活用し、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	掛かりつけ医に、昔からの主治医を引き継いでも構いませんが、ホームでの協力医には、日頃の健康管理はもちろんの事、熱発時の往診や看取りの協力など、夜間でも対応して頂いている。	入所前のかかりつけ医の利用を尊重して対応している。一方、ホームと連携する医師もおり、日々の健康管理と緊急時の対応をお願いしている。	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	看護師は常時いる訳ではないが、記録にて情報を共有し利用者の状態を把握している。処置ノートなど独自なものを作り、適切な指示をしている。いつでも連絡できる体制がある。		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時は医療機関に情報を提供し、安心して治療が出来るようにして頂き、見舞いに行きながら入院中の情報を頂いている。退院時には病院側とカンファレンスを行い、不安なく退院出来るようにしている。		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	ご家族と入居の段階から話し合いの場を設け、どのように考えているかを書類で交わすことにより、双方で確認している。終末期には協力医からご家族に説明して頂き、書類にて確認している。寂しくないよう、施設孤独死のないよう、チームケア体制が取れている。	重度化した場合の対応について、ご家族と医師を交えてしっかりと話し合っている。また、重度化しても施設内で孤独化しないように、ホーム内の日々の活動に可能な限り参加をしていただいている。	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	緊急時のマニュアルやフローチャートを作成し、社内研修で確認をしている。ノロ対策・ハイムリック等実践で確認したり、焦ることのないよう日頃より看護師から指導をし、実践力を身に付けている。		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	防災訓練を行い知識や技術を身に付けている。スプリンクラー・火災報知器の使い方の研修も行っている。運営推進会議では、災害時の協力の呼び掛けや対策を話し合っている。	定期的に避難訓練を実施し、職員の認識を徹底している。また、水や食料の備蓄も行い、地域の防災拠点としての機能も意識している。	現行の避難訓練はホームの職員だけで実施されています。地域の消防関係者等の外部の方を招き入れ、ホーム内の状況を日頃から把握して頂いた上で、施設に合わせた避難体制を構築される事を期待します。

さわやか川中島 第1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	社内研修で、個々の人格を尊重した取り組みについて勉強会をしている。本人に合わせた生活リズムを大切に、その方に合った対応を心掛けている。	利用者ご本人の生活のペースを理解した上で、ホームでの生活リズムの支援を行っている。日常場面で、本人の誇りやプライバシー確保に意識して解除に取り組んでいる事が確認された。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	関わりを大切に自己決定が出来るよう働きかけている。誕生日には希望をお聞きし本人の希望に沿った活動をしたり、声がけて行動を決めていただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人の時間を大切にし、希望に添える支援を心掛けている。出掛けたい方、決まった時間以外に入浴したい方、後でご飯を食べたい等の訴えに臨機応変に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ひな祭りには二部式の着物を着て、お化粧をしたり、男性入居者は自分で髭剃りをしたり、なるべく自分で服を選んで戴いたり、櫛で髪の毛をとかして頂く様、支援しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	リンゴや柿の皮むきをしたり、茶碗拭き、おしぼりたたみなど、お手伝いして頂いている。食事やお茶の時間は職員も一緒に同じものを口に、コミュニケーションを取っている。手作りおやつは積極的に参加して頂いている。	利用者の状態や意欲に合わせて、食事の配膳や片づけに参加して頂いている。また、利用者の食事の楽しみを広げる為に、毎月おやつレクを行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量のチェック表を作成し、水分等しっかり摂れているかチェックしている。栄養が摂れない方には栄養補助食品を利用したり、食欲の無い方には好きな物を提供するなど個々に応じた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	1か月に一度の歯科衛生士さんの指導により、口腔内の汚れ、臭いにはしっかりと対応できている。義歯の消毒、かみ合わせなど日頃より一人ひとり、チェックしている。		

さわやか川中島 第1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄係を置き、全員の排泄のパターン、使用するオムツ等の種類の確認をし、職員全員が同じ支援が出来るよう努めている。状態が変わった時はカンファレンスにより、対応を見直している。	朝礼で、利用者の日々の状態を共有し、可能な限り自立支援に結びつくように支援している。トイレは広く明るく、清潔感がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	チェック表により便秘の状態は職員全員で把握している。水分摂取や運動に心掛け、乳酸菌飲料や食物繊維の多い食品の提供をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	基本的に午前中の中入浴だが、希望や体調により一日の中で入りたいと思う時間に入って頂く事も可能。入る曜日を決めず、その方の訴えに応じた対応をしている。	出来るだけ利用者の要望に応えるため、入浴日は定めずひとり一人のペースに合わせている。また、午前中入浴が基本であるが、希望に応じて時間に関係なく入浴支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	フロアのソファは皆さんの休息の場になっており午睡もほとんどの方がここで休まれている。就寝も時間にこだわらず、休みたい時に休んでいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬のファイリングがあり、情報の共有をしている。看護師を中心に適切な内服支援を行っている。症状の変化があった時は、その都度家族と連絡を取り、相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々のレクリエーション、毎月の行事ごと、誕生日会等、個々に合わせた内容を吟味し支援している。外部からの歌のボランティアは毎月の楽しみごとになっている。その方に合った係を決めて、お手伝い頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は散歩に行くこととし、動物園・足湯・菊花展など時間があれば出掛けしている。またなるべくご家族にも協力頂き、一緒に外出して頂いている。地域の行事ごとには、地域の皆さんの協力も得られている。	冬季以外は、日常的に散歩や、地域の夏祭り、運動会等の行事にも参加し、地域の支援を受けながら外出を行っている。また、ご家族にも声掛けをし、利用者の希望に沿った外出支援の機会を設けている。	

さわやか川中島 第1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いの管理は事務所でやっているが、そのことを利用者にも伝え、いつでも希望の物が買える、買い物にも行けると話し支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者からの希望があれば、いつでも電話が出来る。また家族からの電話も引き継ぐこともしている。中々手紙を書ける方は居ないが、正月の年賀状で大切な方から届くと喜ばれている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	広い空間の中にソファ、テーブルを置き、自由に移動している。天気の良い日は窓辺で日向ぼっこし、フロアの所々に昔の写真や問題が貼ってあり、フロアを歩きながら楽しめるようになってきている。加湿器を置き、温度管理にも気をつけている。	広い共有ホールに、ソファ、テーブル等をゆったりと配置し、過ごしやすい空間を演出している。1階と2階の基本的なレイアウトは同じであり、両階を行き来する事のある利用者が、混乱をまねかない作りとなっている。また、大きな窓の外の景色から、自然と季節感が感じ取れるようになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1階・2階の入居者で区切らず、その人に合った場面、場所で自由に行き来している。孤立しないよう、都度職員が気を配り、その方に合った対応をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際は、なるべく新調せず、馴染みの物を持参して頂く様話し、環境が変わらない様支援している。手作りのカレンダーや、誕生日カード、写真を壁に貼り、殺風景にならないよう支援している。	利用者やご家族と相談の上、馴染みの物等を利用して、個人の空間づくりを支援している。また、間仕切りを外すと、夫婦部屋として利用できる居室もあり、多様なライフスタイルの支援の可能性も考慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全面を考え、センサーやセンサーマット・ナースコール等を設置し見守りしながら、自立した生活が送れるよう支援している。		